

指導の実際 3 (授業展開案 3) 「視野を広げて書こう」

言語活動...「小説の一部を脚本化する」

1 具体的な指導のアイデア
それぞれの過程で特に有効だった手立てについて詳細を説明しています。



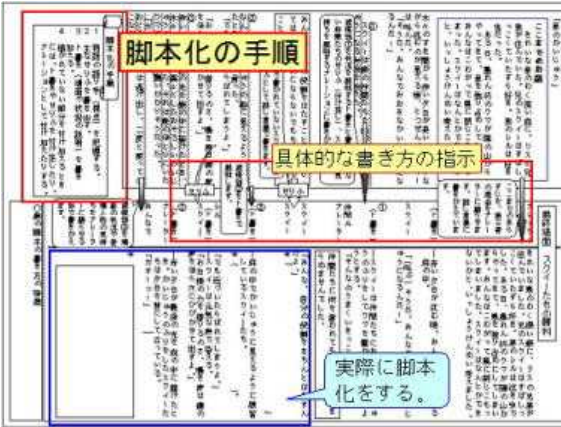
過程

指導のアイデア - 手順、気付き、資料と資料活用上の留意点等 -

見通しをもつ

言語活動のモデルとなる単元導入の工夫

学年劇の映像や実際の脚本を見て気付いたことを発表させ、脚本への興味を喚起させる。
脚本を書く手順をワークシートを使って確認させる。
小学校のときに読んで内容を理解している作品や有名な作品の一部をワークシートの指示に従って脚本の形に書きかえさせる。
劇の脚本の書き方の特徴について、気付きをワークシートにメモさせる。



実際の脚本を見せた後、自分で文学的な文章の一部を書きかえさせました。実際の授業では、生徒が知っている作品を利用するのが最も効果的ですが、自作の短編を利用することも可能です。(Webでは自作を公開)

生徒の意欲を喚起するために、生徒の活動を中心に学習を進められるよう、1枚のワークシートに必要な情報をまとめました。単元に位置付けた言語活動の模擬的な活動が、簡単な作業でできるように工夫しました。

スモールステップによる学習活動

小説の一部を脚本化する言語活動の中の、脚本の下書きを書く部分をスモールステップによる学習活動で行った。
脚本化する部分の登場人物の心情や情景についての情報を整理し、収集させる。
(書かれていないエピソードの心情については、関連した記述を根拠にして想像し、ワークシートに書かせておく。)
主なせりふを登場人物ごとに色を変えて付せんに書き出させる。

身に付ける
習得

〔活動の流れ〕

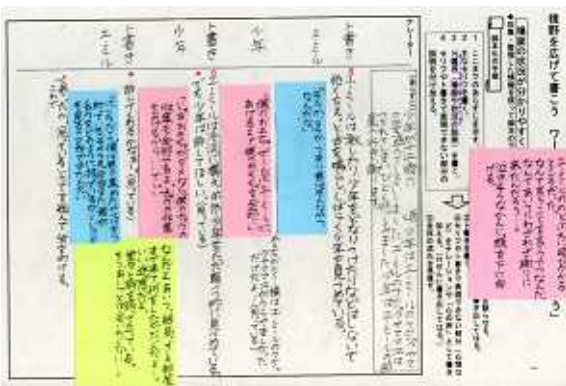


情報の整理・収集。

せりふとト書きを書く。

脚本の形にまとめる。

〔生徒のワークシート〕



書かれていない登場人物の心情は関連のある記述を基に想像して書かせます。その際、もともとあるせりふを人物ごとに色分けして書いている付せんと同じ色で大きさの違うものにも書かせておき、どの部分に挿入するかや心の声とするか、ナレーションとしてナレーターに語らせるかも考えさせました。

黒板を使って(板書例参照)活動の仕方を確認した後に活動をさせました。付せんを活用することで、書き方や言葉づかいなどを確かめることができ、構成を見直すことも容易でした。

活用

振り返る

交流による自己及び相互評価

書き上げた脚本を自己評価して、評価表に記入させる。グループ内で各個人が作成した脚本を読み合わせる。友達の脚本を、評価の観点に照らし合わせて評価させる。友達の脚本のよいところをピンクの付せんに書き、アドバイスを青の付せんに書いて、本人に渡させる。友達の脚本を読んで、自分のリーフレットに生かしたいと思ったところを評価表に記入させる。友達からもらった評価を参考にさせ、自分の脚本の改善点を評価表に記入させる。

付せんを使うか直接評価表に記入させて回すようにするかは、学級や生徒の実態に応じて適宜選択する。

見た目の美しさや文章の長さなどではなく、評価の観点に照らし合わせて評価を行い、よいところやアドバイスを具体的に書くように指示をしました。自己及び相互評価をすることによって、生徒は自分の作品の改善点に具体的に気付くことができました。

学習計画表の振り返り欄の利用

毎時間、学習活動についての振り返りを書かせる。単元の最後に、毎時間の振り返り欄の記述を参考にして何を学んだかを振り返らせる。単元の学習を通して身に付いたと思う力について、具体的に書かせる。で書いた身に付いたと思う力の活用場面について、書かせる。

単元の学習を通して身に付いたと思う力とその力の活用場面

学習活動に対する振り返り

何のために、どのような学習活動を行ったのかを振り返らせ、具体的に書かせるようにする。

〔生徒の記述例〕

- 単元を通して身に付いたと思う力
- ・ 根拠を基に書く力
 - ・ 視点を変えて書く力
 - ・ 想像したことを文章にする力
 - ・ 条件に合わせて書く力
- 身に付いた力の活用場面
- ・ 劇の台本や司会進行のシナリオを書くとき
 - ・ 視点を変えて文章や本を読む必要があるとき

板書例 (6 / 9時の板書)

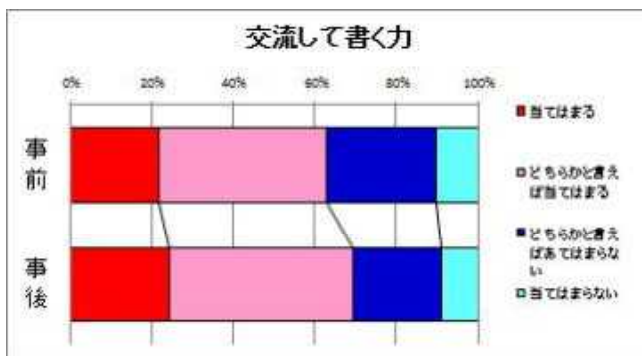
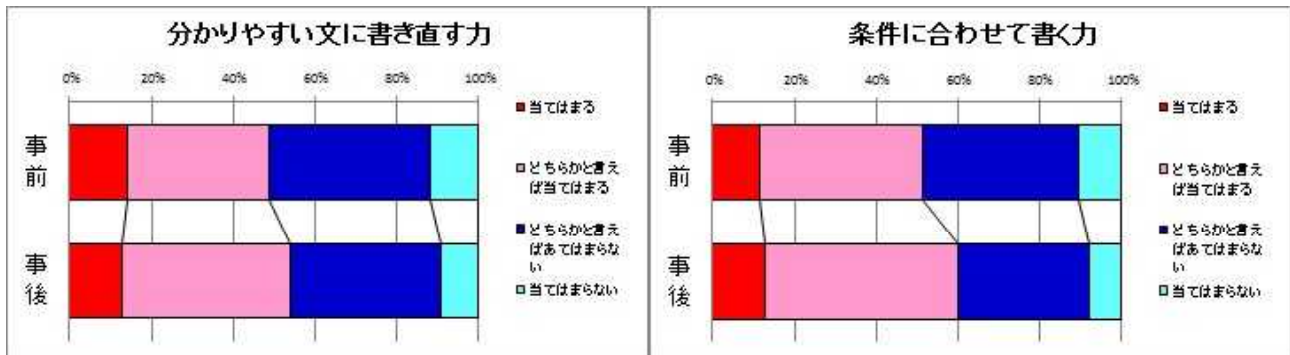
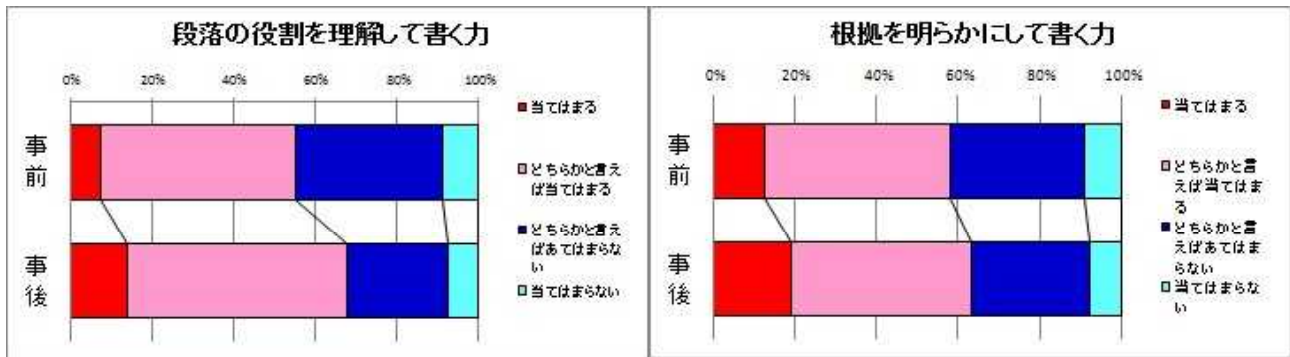


2 生徒の変容

1 アンケート結果より

- ・ 実際のアンケートでは、新学習指導要領の指導事項を基に、10項目でアンケートを実施しました。本単元では、「条件に応じて、伝えたいことが明確に伝わるように書く力を身に付けさせる」というねらいを達成するために、書くことの指導事項ウ「記述」、指導事項エ「推敲」に指導の重点を置いています。
- ・ すべての項目で、事前よりも事後の方が「～することができる(分かる)」と答える生徒の割合が増えました。本単元のねらいにつながる項目についての変容は以下のとおりです。(上のグラフが事前、下のグラフが事後のアンケートの集計結果を示しています。)

〔アンケートの集計結果〕



〔考察〕

- ・ アンケート結果から、何を伝えるために書くのか理解して書く力や表現を工夫して書く力、条件に応じて書く力等、単元のねらいにつながる項目において、意識化できた生徒がかなりの割合で増えたことがわかります。本単元の学習を通して、必要な情報を取り出し、目的に合わせて整理し、条件に応じた書き方で書くために必要な知識・技能を生徒が習得することができたことがうかがえます。
- ・ ここに示した項目以外では、交流して条件に応じて書けているか確かめる力が身に付いたと多くの生徒が意識していました。

2 生徒の感想より(抜粋)

- ・ 小説の一部を脚本に書きかえることで、目的に応じて書いたり書き加えたりする力が身に付いたと思う。
- ・ 少年やエーメールの気持ちになって心情や行動を想像するのは難しかったが、おもしろかった。文章に書かれていることを基に、自分の言葉に書き直したり、ト書きやせりふの形になるように書きかえることで、条件に合わせて書く力が付いたと思う。
- ・ 小説を脚本に書き直すのに必要な情報を集めることができたのでよかった。
- ・ ト書きを書くときに場面や状況を表現するのが難しかった。読んだ人に伝えたいことが分かるように書くことは難しいけど、大切だと思った。
- ・ 相互評価で友達の脚本を読んで、自分の作品に生かしたいところや自分の脚本の改善点が見つかったのでよかった。参考にして、分かりやすい脚本にしたい。
- ・ 文章に書いてあることを客観的に見るようになった。
- ・ 想像したことを分かりやすく書き表す力が付いたと思う。劇の脚本を書いてみたくなった。
- ・ 条件に合わせて書く力や想像したことを文章にする力が身に付いた。学年劇の脚本を書くときや司会進行の言葉を書くとき、文章を読むときに活用できると思う。

